

発達の段階における指導の重点

	確かな学力の育成と個性の伸長	豊かな人間性や社会性の育成	健やかでたくましい体づくり	言語活動
第1期（小1～小4） 「基礎づくり期」 基礎・基本の定着を図る時期	発達の段階 ○言語と認識の力も高まり、ある程度時間と空間を超えた見通しが持てるようになる（自然等への関心も増す）。 ○幼児期の自己中心的な側面も残っているが、他人の立場を認めたり、理解したりできるようになる。 ○集団の一員との意識を持つようになり、子どもたち同士でも役割を分担して行動することが多くなる。 ○してよいことと・悪いことについての理解はできるようになる。 ○運動遊びの経験を通して、運動への肯定的な態度や多様な動きが身に付く。			
	指導の重点 ・読み書き計算などの基礎学力の確実な定着を図る。 ・体験活動などを通して自分の考えをもつ。	・自然の美しさや生命の大切さに気付く。 ・「人として行ってはならないこと」について考える。	・基本的な生活習慣も身に付け、規則正しい生活ができるようにする。 ・運動を楽しむ中で、基本的な動きや技能を身に付ける。	・人の話をしっかり聞く。 ・自分の気持ちや考えを伝える。
第2期（小5～中1） 「充実期」 第1期で身に付けた基礎・基本の拡充を図る時期	発達の段階 ○物事のある程度抽象化して認識することが可能となる。 ○対象との距離をとって分析できるようになり、自分のことも客観的に捉えられるようになる。 ○集団の規則や遊びのきまりの意義を理解し集団活動に主体的に関与するが、閉鎖的な仲間集団ができる。 ○道徳的判断については、行為の結果とともに行為の動機も十分に考慮できる。 ○自分の動きを客観的に意識したり理解したりすることができはじめ、運動発達が進む。			
	指導の重点 ・自分の考えをノートなどにまとめ説明する。 ・自分の考えだけでなく他者との考え方の相違について考える。	・社会のきまりを守り、身近な人と協力し合う。 ・自尊感情を高める。 ・自然や生命を大切にしようとする。	・栄養バランスのとれた食事をとる。 ・健康でたくましい体づくりのためにできることに進んで取り組む。	・他者の話から伝えたいことを考える。 ・自分の考えを工夫して伝える。
第3期（中2～中3） 「発展期」 第2期までに身に付けた力を発展させる時期	発達の段階 ○内面の世界が周りの友達にもあることに気づき、未熟ながらも大人に近い心身の力を持つようになる。 ○自意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で自らの生き方を模索し始める。 ○仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。 ○体格や体力が著しく向上し、運動や健康・安全に対する興味・関心が多様化する。 ○生涯にわたって計画的に運動する習慣を身に付けていくようになる。			
	指導の重点 ・資料などを活用し考えたことを筋道立てて説明する。 ・自立と社会参加に必要な力を身に付ける。	・社会の一員としての役割と責任を自覚する。 ・目標の実現に向け努力する。 ・自他の生命を大切にする。	・自他の生命の大切さを理解し、健康で安全な生活を送る。 ・健康で安全な生活を送るための必要な知識や技能を身に付ける。	・他者の話から要旨をつかみ伝えたいことを整理する。 ・自分の考えを聞き手を意識して伝える工夫をする。